

418) 別れの春

白い椿の花咲けば	<small>ふるさと</small> 故郷の春思い出す
ごまだら雪の合間から	<small>ゆきわりそう</small> 雪割草が花開き
雪解け水の流れには	川の魚が目を覚ます
故郷の春まだ遠く	故郷の春まだ来ない
僕の心に <small>ゆきど</small> 雪解けの	寒さ残して春はゆく
春の盛りに故郷の	山にわけいり野の花を
髪に飾って腕くんだ	愛する <small>ひと</small> 女よさようなら
別れの春は哀しくて	出逢いの春はまだ来ない
一つ二つと咲いてゆく	カタクリの花かぐわしく
一つ二つと散ってゆく	匂い椿のまた愛し
桜の花の開くころ	愛する女は世をさりぬ
別れの春は哀しくて	出逢いの春はまだ来ない
白い椿の花咲けば	故郷の春思い出す
まだ春浅き故郷は	北風寒く雪の中
白い椿の樹の下で	たったひとりの春がゆく
別れの春は哀しくて	出逢いの春はまだ来ない
白い椿の花咲けば	故郷の春思い出す
別れの春は哀しくて	出逢いの春はまだ来ない